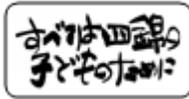


学校だより



しましん

令和元年 11月
京都市立第四錦林小学校
校長 長谷川 英司
特別号 その2

令和元年度 前期 学校評価まとめ

※各項目については、子どものふり返りの質問を中心に書いています。

自ら学ぶ子

「チャイムを授業の場所で聞いている。」

今年度より朝休み・中間休み・昼休み終了の5分前に、予鈴の音楽「シング」が流すことになりました。その結果、教室の中でチャイムを待てるようになりました。教員も基本的に休み時間は子どもと過ごしているため、子どもの様子を把握するとともに、教員自らが見本となって45分の授業時間を確保するスタイルを意識しながら取り組んでいます。



「朝学習では、10分間しっかり読書に取り組んでいる。」

児童の9割が「できている」という結果になっていますが、保護者の評価をみると家での読書は5割が「できていない」という結果になっています。学校では図書司書の先生や図書委員会の子どもたちが、図書に興味をもてるような工夫や取組などを頑張っています。「読書の秋」と言われるように、図書に親しむには今がぴったりの季節です。少しだけ時間を見つけて、親子で読書に親しんでみるのもいいのではと思います。

「授業中、友だちや先生の話をしっかり聞いている。」

この項目は、昨年度と比べて「できている」の数値が高いです。授業の見通しやめあての明確化、学習ルールの徹底などがしっかりとできつつあることが要因の一つと考えられます。保護者の評価でもほぼ9割が家でしっかりと話を聞いていると回答されています。この数値を維持しながら後期はさらに上げられるように取り組んでいきたいです。

やさしい子

「いつでも自分から声を出して笑顔であいさつをかわしている。」

「できている」の数値が8割を超えていますが、前回・前々回と比べると数値は下がっています。子どもたちの様子をみていると、自分から進んであいさつをするという意識は十分でないように感じます。学校でもあいさつの大切さを伝え、教職員から積極的にあいさつをすることを継続していきます。

「このクラスには自分を助けてくれる友だちがいる。」

この質問の数値は、保護者も児童も「できている」が9割を超えていました。児童の結果においては学年別で見ると学年が上がるにしたがって「できている」の数値は高くなっています。学年が上がるにしたがって、仲間意識や相手意識が高まってきていることがうかがえます。今後も安心できる学級づくりをめざし、様々な取組を進めていきます。

「自分のよいところがわかっている。」

この質問の数値は、保護者も児童も「できている」が9割を超えていました。児童の結果においては、低学年では「できている」の数値は高くなっていますが、学年が上がるにしたがって「できている」の数値は低くなっています。高学年は思春期に近づき、悩みも複雑化していきます。自己存在感を高められるような取組（たてわり活動、係活動、委員会活動など）や授業づくりに努めていきます。

元気な子



「学習中姿勢を正しくしている。」

児童の「できている」の数値が、前回よりも低くなっています。また、保護者の数値も前回よりも低くなっています。学習中の姿勢は、学習集団をつくる上でとても大切なことですが、子どもの学習のやる気にもつながっています。姿勢が悪いと及ぼす影響について、養護教諭を中心に身体測定時での保健指導や児童自身の机・椅子の高さ調整をこまめにしながら改善を図っていきます。

「早寝・早起きをしている。」

この項目については、児童も保護者も「できている」の数値が前回・前々回と比べると、今回が最も低かったです。外遊びと同様に、これから寒くなってくると起きる時刻も遅くなっていくかと思えます。また、高学年になると習い事の関係で寝る時刻が遅くなることが多くなります。睡眠時間を確保することは、子どもの心身の成長や精神面のバランス維持にもつながります。学校でも長期休業後には「生活見直し週間」を行い、早寝・早起きが実行できるよう取り組んでいきたいと思えますので、ご家庭でもご協力をお願いします。

※「学校評価」へのご協力、ありがとうございました。後期もどうぞよろしくをお願いします。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「**京**都は**く**く**み**憲章」を**実**践しま**し**よう!

